

春の全道火災予防運動

4月20日～4月30日

「もう一度 確認安心 火の用心」

問 松前消防署 管理課指導係 ☎42-21119

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災の予防思想の一層の普及を図り、火災の発生を防止しようといわれるものです。特に住宅火災では、高齢者を中心とする犠牲者が約7割と増えていますので、火災による高齢者の死傷者を大幅に減少させることを目指しています。



火災の件数 知っていますか？

令和3年の1月～6月までに全国で発生した火災の件数は1万1166件で、これは、一日あたりおおよそ124件、12分ごとに1件発生していることとなります。その内、総死者数は503人で、建物火災で亡くなった方は433人となつています。亡くなった方のうち、65歳以上の高齢者は約7割にあたります。

逃げ遅れによる避難を防止するためにも、高齢者だけを残したまま外出するときは、ご近所に一声かけるなど日頃からのコミュニケーションを心掛けましょう。

建物火災の発生原因で一番多いのは、「コンロ」による火災です。2番目に多いのが「ストーブ」続いて「タバコ」となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅に居て自炊をする方が増え、調理中に火災を起こす事例が多くなりました。

調理中に火から離れる行為や、近くに燃えやすい物を置かないよう心がけましょう。



住宅用火災警報器の 奏功事例

北海道内において、住宅用火災警報器が有効に作動し大事に至らなかった事例を紹介いたします。

事例1

入浴中、住宅用火災警報器が鳴っているのに気が付き、周囲を確認したところ、台所のシンク内のごみ箱に捨てたタバコの吸い殻から煙が出ていたものを発見した。家人が水道水をかけて消火し、大事に至らなかった。

事例2

魚を焼くため、コンロに火を点けたあと、隣部屋の居間に移動し、ソファで眠ってしまった。居間に設置した住宅用火災警報器の音で目が覚めた。室内は煙が充満しており、ガステーブルのグリル排気口から炎が上がっていた。家人が水道水をかけて消火し、大事には至らなかった。



屋外の火災に注意！

春は空気が乾燥し、風の強い日が多くなるため、火災が発生すると被害が大きくなります。

また、畑で枯草などを燃やし、火の不始末などにより野火や林野火災に発展する事例があります。

畑で出た枯草などは、家に持ち帰り、ごみ処理のルールに従って廃棄しましょう。

林野火災の防火ポイント

- ① 枯葉や枯草がある場所など火災が起こりやすい場所では、たき火をしないこと！
- ② ごみ焼きをしないこと！
- ③ 火気の使用中はその場から離れないこと！
- ④ 強風時や乾燥時には、たき火や火入れをしないこと！

貴重な森林を山火事から守るため、皆さまのご協力をよろしく願います。

《広告》



コミュニティホーム
緑洋館
Community Home RYOKUYORAN

『老後は松前へ』
港を見渡す施設と懐かしき残る北の小京都で
心かよう老後の暮らしを…

Milieu Co., Ltd.
株式会社ミリュ
〒049-1505 松前郡松前町字博多11番地
☎0139-46-2911 FAX.0139-46-2912

ホームページ <http://www.milieu.co.jp>



シニパンション
ホーランド博多